

2024年度 学 校 経 営 計 画

1 学校教育目標

ア 真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた心身ともに健全な生徒の育成を目指す。

イ 自ら学ぶ意欲と、主体的に考え判断し行動できる資質や能力の育成を図る。

校訓 「 勉学 礼儀と品位 勤労・責任・協同 」

2 学校の特徴

本校は創立102年を迎える普通科、農業科の2学科からなる地域に根ざした高校である。泊高校と再編統合し新高校としてスタートした。これまで地域の人たちからは、明るい元気な学校、勉強・部活動に励んでいる文武両道の学校として評価され、厚い信頼を得ている。

普通科は、生徒の進路希望を実現するため、1年次から3年間を見通した、きめ細かな学習指導、進路指導を行っている。2年次から文系・観光ビジネスコース・理系・自然科学コースを設けている。観光ビジネスコースでは、「地域を学ぶだけでなく、地域で学ぶ」をテーマに、地域の自然、文化、歴史、産業、交通、ひとなどの地域の観光資源を知り、調査し、発信する活動を行う。地域を眺める多様な視点の獲得と、地域を変える挑戦を通して、自ら課題を発見し、解決しようと探究する力を養うことを目標に取り組んでいる。自然科学コースでは、学校設定科目「サイエンス」や「立山研修」、「特別講座」などの学習を通して、科学を学び体験する喜びを感じさせ、科学的な考察力・探究心を育てている。また、文系・理系においても総合的な探究の時間を使い、探究心・表現力の育成を図っている。

農業科は、教育方針として①自然に学び大地と生きて未来を育む②地球環境を守り、地域資源の活用を図る③グローバルな視点を育てる④3年間の高校生活を段階に応じた教育内容で組み立てる、の4つを掲げ、産業構造の変化、技術の進展等に柔軟に対応できる意欲的实践力を備えた国際感覚豊かな農業経営者や、関連産業に従事する人材ならびに農業理解者の育成に務めている。

部活動では、運動部・文化部ともに意欲的に活動している。特に陸上競技部・ソフトテニス部・バスケットボール部・アーチェリー部・吹奏楽部など、北信越大会や全国大会への出場を目指し練習に励んでおり、成果をあげている。

3 学校の現状と課題

本校生徒は、素直で礼儀正しいと評価される一方、自らの考えや意見の主張にやや苦手意識を持つ。今後、社会の一員として活躍する上で必要な自立心やコミュニケーション能力、異なる他者と協働する能力等を育むとともに、まずは自己理解を進めさせ、自らの将来像を描かせることを念頭に、講演会や校外における体験学習や学校行事、地域の人々との交流活動などを通して、自主性や積極性をより一層育成するよう努めたい。

学習に対する積極性を育むため、生徒の実態に応じた授業や体験学習、主体的・対話的で深い学びを進め、生徒が自ら学び、自ら考える自己教育力の育成に努める。普通科では観光ビジネスコースと自然科学コースの2つのコースをもち、さらに農業を基幹産業とする入善町にある農業科を有する総合高校として、県内の大学や研究機関、地元の農協や農家などとの連携を密にし、各種調査研究活動や体験学習を充実させ、家庭・地域との連携のもと生徒の豊かな人間性を育成する。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
(1)	教育課程 重点1①	目標	<ul style="list-style-type: none">○調和のとれた人間育成を目指して編成する。○各教科・科目を関連づけ、系統的、効果的な指導ができるようにする。○生徒の特性、目標等に応じた適切な選択ができるようにする。
		計画	<ul style="list-style-type: none">○普通科では、1学年では共通科目を履修させ、2学年からは、類型別カリキュラムを編成し、文系、観光ビジネスコース、理系、自然科学コースに分ける。○普通科2・3年生のカリキュラム編成では、授業展開や科目設定に配慮し、特色ある教育活動の展開を工夫する。○観光ビジネスコースや自然科学コースでは学校設定科目を設け、興味・関心や探究心を育てる。○農業科では、体験的な学習、課題解決学習を通して、意欲や技術の向上を図り、職業人としての資質の育成を行う。○総合選択制により、生徒は学科の枠を越えて互いが学び合え、より自分の興味・関心に応じて学ぶ。
(2)	教科指導 重点1②	目標	<ul style="list-style-type: none">○生徒の特性や進路などを考慮し、効果的な指導を目指す。○自ら考える自己教育力の育成に努めるとともに、互いに協力して学び合う態度を培う。○基礎的・基本的な内容の定着を図り、発展的な思考能力を高める。
		計画	<ul style="list-style-type: none">○普通科では、数学・英語で習熟度別学習を実施し、個々の到達度に応じた学習を推進する。○農業科では、体験的な学習を重視し、実習・実験の時間を十分に配当する。○<u>生徒の実態とスクールポリシーに応じた「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の工夫を進め、学習習慣の定着を図る。</u>○<u>ICT機器を使った授業展開を共有し、生徒にとって効果的な指導を目指す。</u>
(3)	生徒指導 重点2⑤	目標	<ul style="list-style-type: none">○自発的、自律的活動を推進することにより、住みよい社会の建設に参加していく態度を養う。○規律を守り礼儀と品位を重んじる態度と自他敬愛の精神を養う。
		計画	<ul style="list-style-type: none">○生徒自治委員会、交通安全委員会の活動と連携しながら、交通安全に対する意識の向上を目指す。○集団での活動や地域活動を通して、本校生としての望ましい在り方を自覚させる。○<u>「挨拶」を自主的に行い、自覚を持って「服装」を正しく着用する生徒を育成する。</u>○<u>SNS等の正しい使い方やルール等を指導し、スマートフォンの節度ある使用ができる生徒の育成を図る。</u>
(4)	進路支援 重点3②⑥	目標	<ul style="list-style-type: none">○正しい自己理解に基づき、生徒自らが進路目標を設定し、学習等の活動に主体的に取り組むことができるように指導・援助する。○進路目標実現のために、基本的な学習態度の育成を図り、学力や資質の向上を目指す。
		計画	<ul style="list-style-type: none">○<u>進路目標達成のために、学習指導や個別指導(推薦指導)を工夫し、全校規模での取り組みの強化を図る。</u>○学習実態や、学習の到達度(模試結果など)を通して生徒の実態を把握し、データを活用した個人面談を実施することで、早期に自らの「進路目標」を設定させるためのサポート体制を充実させる。○<u>3年間を見通した進路計画をもとに、各時期ごとに応じた進路ガイダンスや各種講座などを積極的に実施することで、生徒の進路意識を向上させ、自発的な学習意欲を育む。</u>
(5)	特別活動 重点4④	目標	<ul style="list-style-type: none">○「主体的に活動に参加する。協同して活動に取り組む。他者とのコミュニケーションを楽しむ。」といった活動力を高める。○思いやりの気持ちを持ち、多様な他者の価値観や個性を尊重し、助け合ったり協力し合ったり、共に学び合いながら成長しようとする姿勢を持つ生徒を育成する。○礼儀正しい挨拶、節度ある言葉使いや社会生活におけるルールやマナー及びその意義について理解し、実践できるようにさせる。

		計画	<p>○ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事など様々な集団活動を通して、学び合う楽しさや自己肯定感を高める。また、何事にも主体的・継続的に取り組み、多様な人々と協同する態度を養う。</p> <p>○部活動では、幅広い人間関係と好ましい人間関係を構築できる能力を育て、学校生活の活性化を図る。</p>
(6)	観光ビジネスコース 重点5②③	目標	<p>○生徒の地域に対する新しい視点の形成を促し、ためらわず自己変容していく力を養う。</p> <p>○目標を持って上級学校を目指し、進学後にも意欲的に学び、活躍できる人材を育成する。</p>
		計画	<p>○県や地域の教育機関・研究団体と連携しながらフィールドワーク型教育活動をすすめ、地域の文化・環境を身近に感じる心を育てるとともに、問いを深める力を養う。</p> <p>○課題研究およびその発表活動を通して、人文・社会科学に対する興味を深めながら、人文・社会科学的思考力や情報発信力の育成を図る。</p>
(7)	自然科学コース 重点5②③	目標	<p>○生徒の数学、理科、情報に対する興味・関心を高め、知的探究心を育む。</p> <p>○目標を持って上級学校を目指し、進学後にも意欲的に学び、活躍できる人材を育成する。</p>
		計画	<p>○県や地域の教育機関や研究団体と連携しながら少人数班による体験型学習活動をすすめ、地域の自然を身近に感じる心を育てるとともに、主体的行動力および指導力を養う。</p> <p>○課題研究およびその発表活動を通して、自然科学に対する興味を深めながら、科学的思考力や情報発信力の育成を図る。</p>
(8)	農業科 重点5②③	目標	<p>○地域農業を中心とした実験・実習・課題研究を重視し、地域に根ざす農業教育を推進する。</p> <p>○次代の農業経営者や関連産業従事者などの育成を目指すため、異校種交流や委託実習を通じて地域社会に貢献する産業人を育成する。</p>
		計画	<p>○体験的課題学習を推進するため、実験・実習を主とする科目において分割授業やグループ学習を実施しながら、個別指導の徹底を図り科学的思考力を育成する。</p> <p>○異校種交流では、小学校や支援学校、福祉施設との交流体験を通じて社会人として必要なコミュニケーション能力の育成を図り、主体的行動力を身につけさせる。</p>

(様式3)

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

2024年度 入善高等学校アクションプラン —1—		
重点項目	学習活動 ～主体的・計画的な学習習慣の育成～	
重点課題	深い学びにつながる授業づくりと学習習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none">授業は概ね落ち着いて受けている。しかし、中学校までの既習事項の定着が十分でないため、意欲があっても学習の方法がわからず、授業に積極的に関われない生徒が増えており、集中力を欠く生徒もいる。小テストや定期考査では、テスト範囲を丁寧に学習し、高得点をとる生徒が多い。その一方で、もう一步踏み込んで概念的知識を得ようとしたり、「思考力・判断力・表現力」を高めようとしたりする生徒は少ない。家庭学習は、与えられた課題学習を仕上げることで終わり、進んで理解の深化に努める生徒は少ない。家庭での学習時間も減少傾向で、十分ではない。	
達成目標	①「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを目指し、授業実践の相互見学を3回以上行った教員の割合	②ICTや対話的な活動(グループワークや相互評価、動機付けとなる評価など)を活用した授業で、授業への意欲・関心が高まったと答えた生徒の割合
	70%以上	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">学習への動機付けと習慣付けを、個人面談を軸として計画的、継続的に行う。授業実践の相互見学を通して、深い学びへの視野を広げ、各自の指導実践に活かすことで授業改善に努める。授業・考査等における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の到達度目標や評価方法を生徒と共有し、その成績評価が生徒の学習の動機付けになるよう指導と評価の一体化に努める。主体的・対話的な活動(自己評価や生徒同士の相互評価などの振り返りを含む)を効果的に実施し、「主体的に学習に取り組む態度」の育成と生徒目線の授業づくりに努める。タブレットなどのICTを効果的に活用した授業改善に積極的に取り組む。	

2024年度 入善高等学校アクションプラン —2—	
重点項目	学校生活(生徒指導) ～集団の一員としての自覚と主体的な行動で学校生活の充実を図る～
重点課題	<ul style="list-style-type: none">①「挨拶」を自主的に行い、自覚を持って「服装」を正しく着用する生徒の育成。②スマートフォンの節度ある使用ができる生徒の育成。
現 状	<ul style="list-style-type: none">① 継続して「挨拶」と「服装」に重点を置いて指導してきた。挨拶のできる生徒は多く、服装も全般的に正しく着こなしている。その一方で、授業では声のない受け身の挨拶で留まる生徒、TPOに応じた身だしなみの規準や言葉遣い等の認識に課題を持つ生徒もおり、校訓「礼儀と品位」の定着に向けて学校全体で意識の向上を図る必要がある。② ほとんどの生徒が入学前からスマートフォンを所持しており、SNSやゲームなどで夜遅くまでスマートフォンを手放せない生徒が多い。昨年度、「クラスで設定したネットルールを守っている生徒の割合 70%以上」を達成目標としたが、67.5%であった。また、生徒間のトラブルにSNSでのやりとりが関係する場合も増えている。
達成目標	<ul style="list-style-type: none">① 自主的に声をかけあう【挨拶】、本校の身だしなみ規準に則った【服装】について、生徒の自己評価<1:いつもきちんとできる、2:いつもだいたい② クラスで設定したネットルールについて、生徒の自己評価<1:いつもきちんと守っている、2:いつもだいたい守っている>の割合。

	できる>の割合。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・【挨拶】「授業」80%以上、「校内」80%以上 ・【服装】80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や生徒集会などを通して、TPOを意識した身だしなみと挨拶のできる入善高校生の意識を共有する。 ・授業の始まりや終わりの挨拶は授業担当者がしっかりとできるまで指導する。 ・生徒からの挨拶に教職員もしっかりと対応する。 ・毎月29日に身だしなみを自己評価する時間を設け、チェックシートに記入する。そのシートに基づき、個々の生徒の状況に応じた個別指導を担当と連携して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のスマートフォン使用状況について詳細な調査を行う。調査結果を生徒に伝達し、自分たちの使用実態と危険性を自覚させる。 ・生徒会と問題意識の共有、改善方法の検討を行い、生徒目線での啓発を進める。また、HR活動で調査結果について話し合う機会を持ち、改善点や改善方法について自分たちで考えさせる。 ・クラスで立てたネットルールの取り組み状況について自己評価を行う。その調査結果をクラスで共有し、改善への意識向上を図る。 ・1年生を対象に、専門家の講話を通してネットやSNSに伴う危険性について指導する。 ・教科「情報」担当教員と協力し、情報モラルやセキュリティへの意識向上を図る。

2024年度 入善高等学校アクションプラン —3—		
重点項目	進路支援 ～希望する進路の実現に向かう力の育成～	
重点課題	進路意識の向上と進路目標の達成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、積極的に進路に関する情報を得て、自らの問題として考える態度を養ってほしいが、将来の見通しを持たず、少ない選択肢の中からの安易な進路選択が散見される。 ・進路目標達成に向け、困難に挑戦して最後までねばり強く取り組む姿勢や意欲の不足が見受けられる。 	
達成目標	①自分の進路選択に満足していると する生徒の割合	②生徒への面接実施回数
	卒業時 90%以上	年間5回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標達成のために、学習指導や個別指導を工夫し、全校規模での取り組みの強化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ① 推薦指導(ユニット指導)を早期に行うことで、生徒が自主的に志望校研究や分野研究を進めることができるようにし、進路への高い志を持たせる。 ② 全教職員で推薦試験や一般試験に向けた個別指導にあたる。 ③ 生徒のニーズに沿った補習授業、土曜セミナーを展開し、弱点補強を図る。 ④ スケジュール手帳を積極的に活用させ、自己管理能力を高め、生活習慣の改善を図る。 ⑤ 面接指導を充実させ、生徒一人ひとりの志望や現状に合わせて生活や学習習慣に関する指導助言を行う。 ・「入善高校進路指導計画(ストーリー)」に沿って、各自の主体的な進路意識を育成し、進路実現につながるような進路ガイダンスや各種講座を積極的に実施する。1年次は人生設計や将来の職業に関する内容(自己理解)。2年次は大学、学部学科の理解と関連する職業に関する内容(学問・職業理解)。3年次は学校理解と受験に向けての実践的な内容を念頭に置いて計画する。 	

2024年度 入善高等学校アクションプラン —4—	
重点項目	特別活動 ～様々な活動を通して、社会的な資質の育成を図る～
重点課題	様々な集団活動を通して、学び合う楽しさや自己肯定感を高める。また、何事にも主体的・継続的に取り組む中で、多様な人々と協同する態度を養う。
現 状	本校生は、校内では明るい挨拶や素直な対応が多くみられる。また与えられた役割にも誠実に取り組める。しかし、校外での活動や人とのコミュニケーションは経験不足や自信がないため消極的な態度になりがちである。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ① ボランティア活動や地域の活動に主体的・継続的に参加することで、地域への貢献意識や自己肯定感を高めさせる。 ② 1年次に加入した部活動を3年間継続できるような環境づくりを行う。 ③ ホームルーム活動では、クラス、学年や学校の問題点に対する解決策をディスカッションする機会を学期に一度設ける。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校として、ボランティア活動の意義と意識を高めるため、活動の様子（写真）や事後の感想文などを掲示板や全校集会での発表、生徒会誌への掲載で盛り上げる。 ・部活動では、長期休業中に部活動離れが進む傾向にあるので、目標と計画性を持たせる部長・顧問会議を行い、部活動への充実感を継続させる工夫を行う。 ・ホームルーム活動では、生徒会や担任、学年から改善したい問題点を取り上げディスカッションする機会を設ける。定着するまでは、教員が見本を見せるなどリーダーづくりやディスカッションの方法について経験を積ませる。

2024年度 入善高等学校アクションプラン —5—					
重点項目	その他（課題研究及びフィールドワーク） ～観光ビジネスコースの充実～				
重点課題	入善高校型フィールドワーク教育の推進と自己変容力（問いを深める力）、人文・社会科学的思考力の育成				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本コースでは、「地域を学ぶだけでなく、地域で学ぶ」をテーマに、フィールドワークによって地域のヴァナキュラーを調査する探究活動を行っている。前半は教師の企画するフィールドワークによって地域を眺める多様な視点を獲得し、後半は生徒主体の探究学習によって自ら問いを見つけ出し、さらにそれを深めていく力を養うことを狙いとしている。 ・前半の教師企画のフィールドワークが後半の生徒主体の探究学習に十分に活かされているとは言い難い。 ・すでにある言説に沿った結論にこだわってしまい、フィールドでの経験を真剣に受け止めているが、自らの考えを言葉にすることに時間がかかる生徒が一定数いる。 				
達成目標	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・前半の教師企画のフィールドワークがテーマ設定や調査手法に関して参考になったと答える生徒の割合 </td> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人の言葉を真剣に受け止めたうえで、自らの言葉で地域を語る事ができたと答える生徒の割合 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">70%以上</td> <td style="text-align: center;">70%以上</td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・前半の教師企画のフィールドワークがテーマ設定や調査手法に関して参考になったと答える生徒の割合 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人の言葉を真剣に受け止めたうえで、自らの言葉で地域を語る事ができたと答える生徒の割合 	70%以上	70%以上
<ul style="list-style-type: none"> ・前半の教師企画のフィールドワークがテーマ設定や調査手法に関して参考になったと答える生徒の割合 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人の言葉を真剣に受け止めたうえで、自らの言葉で地域を語る事ができたと答える生徒の割合 				
70%以上	70%以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・教師企画のフィールドワークの後、振り返りの活動を通してフィールドワークの経験を言語化する。レポートを書く際に、KJ法などを取り入れる。 ・各フィールドワークにテーマを設定し多様な視点形成に役立てる。 ・ICT機器を使ってフィールドワークで集めたデータを一元的に管理し、共有することで、経験として得られたものが積み重なっていくようにする。 				

2024年度 入善高等学校アクションプラン —5—	
重点項目	その他（課題研究及びフィールドワーク） ～自然科学コースの充実～
重点課題	体験型学習活動の推進と主体的行動力・情報発信力・科学的思考力の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究に意欲的に取り組む生徒が増えてきてはいるが、先々まで計画的に研究を進めることができていない。 ・課題研究のテーマを決定するのに相当な時間を要し、研究にあてる時間が不足ぎみである。 ・研究内容を深く理解せず発表に臨み、質問された内容に明確に答えられない生徒が見受けられる。
達成目標	①自然科学コース課題研究に主体的に取り組み発表できたと回答する生徒の割合が85%以上 ②今まで4分野だった課題研究のテーマに新たに教科「情報」に関する内容のものを追加する（できれば2班）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持った計画を立てさせ、効率よく研究に取り組ませる。 ・過去の実践例や身近な自然の題材も取り入れ、早期にテーマを決定させる。 ・中間発表会等を活用し、客観的な視点に立ち、研究内容を説明できる力を育成する。 ・情報科の教員と連携を深め、課題研究に取り組んでいく。 ・情報のテーマに限らず、統計学等を学習する機会を設ける。

2024年度 入善高等学校アクションプラン —5—	
重点項目	その他（課題研究及びフィールドワーク） ～農業教育の充実～
重点課題	体験型学習活動の推進と主体的行動力・指導力、科学的思考力の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生活の3年間で9つの連続した学期として、継続的な教育を目指している。1年次は基礎的・基本的知識と技術の習得「慣れる」、2年次は興味・関心・意欲の向上「鍛える」、3年次は科学性・社会性・指導性・専門性の充実「磨く」を各学年の目標として3年間の学習の深化を図り、地域産業に貢献する人材育成を目指している。 ・約9割の生徒が非農家出身であり、農業体験に乏しい生徒が多いため、基礎的な学習や体験の重要性が増している。
達成目標	高校3年間の9つの連続した学期での学習や体験が有意義で満足できたと回答する生徒の割合 <div style="text-align: center;">90%</div>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を取り入れた基礎的・基本的な学習を重視し、農業に対する関心と意欲の喚起を促す。体験学習では、作業目的を科学的に理解できるよう振り返り学習を行う。 ・それぞれの学期での意義をしっかりと理解させ、主体的に行動できるよう指導する。 ・上級生としての自覚の育成、また仲間と協力して作業することで指導性を身につけさせる。 ・当番実習や販売実習、交流活動を通じて、責任感や積極性、対人関係能力などの職業能力の養成を図る。 ・課題研究においては地域農業の課題をテーマにするなど充実強化を図る。 ・地元の優れた農家などで、学ぶ機会を確保し、最新の農業（IoTの活用やスマート農業技術など）の導入・活用を目指し、生徒の学ぶ意欲を高める。